

令和4年度 学校関係者評価及び改善策

(中間・最終)

呉中央中学校区 校番13 学校名 呉中央中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	長欠生徒の割合が高いことが気になります。しぼった指標であると思います。
目標達成のための方策の適切さ	A	家庭学習の目標達成に評価したいと思います。具体的で細かく方策がとられている。
自己評価の結果の分析の適切さ	A	どの学年も家庭学習の習慣が定着してきて良いと思います。適切と考える。
今後の改善策(案)の適切さ	A	生徒の悩みや思いを先生達が寄り添うことで学校への信頼心を持って行ってくれると期待しています。「担任と副担任のそれぞれで面談する機会を安定して設ける」ことはとてもいいことだと思います。安心して話せるだけで心が軽くなると思います。具体的で細かくわかりやすく適切であると思います。
その他		不登校については、一人一人にそれぞれ背景があり、登校したから解決という問題でもありません。本人がいつでも登校できるよう、学校として環境を整えておくことと同時に「登校できていない今の時間も、いつか振り返った時に自分にとって必要な時間だったと思える日が来るよ」と言ってやりたいです。 新体力テスト種目の目標達成を何とか専門家の力等を活用してアップを望みます。年々、体力関係が下がってきているのは知っているが、学校での対応がしっかりしているの、前に比べてかなり良くなったんだなと思います。 学力調査結果も知りたい。子供達はよく挨拶も出来ている。学校も子供達もよく頑張っている。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るため、ICT等を活用し、思考過程の工夫を意識した授業を展開していく。 ・通過率30%未満の生徒の手当のため、補充学習の内容や学習方法等を各教科担当者が考え、実践していく。 ・体力向上については、クラスマッチや体育的行事を活用して、目標を持って運動する機会を増やしていく。 ・遅刻生徒数を軽減し、家庭学習時間を向上させるために、保護者理解を進めていく。保護者に生徒の状況を説明する機会を提供し、共に生活を向上させようとする気運を高める。 ・生徒指導部会の定例化により、配慮が必要な生徒や不登校傾向の生徒等の情報共有を徹底し、全教職員で関わりきる体制づくりを推進する。
--------------------	---